



お知らせ

News



平成27年度AP第2回セミナー「アクティブ・ラーニングの取組と課題」を開催しました

2016年03月16日

3 / 3 (木)、平成27年度AP第2回セミナー「アクティブ・ラーニングの取組と課題—広島地区A P採択校 県立広島大学と比治山大学の実践—」を開催しました。

本学では、今年度から本格的にアクティブ・ラーニングの実践に取り組むとともに、これまでに「アクティブ・ラーニングの基礎知識」（平成27年3月）、「アクティブ・ラーニング実践編」（平成27年9月）という2回のA Pセミナーを実施し、アクティブ・ラーニングに関する認識を深めてきました。今回は、広島地区とともにA Pに採択された県立広島大学から講師をお招きし、改めてアクティブ・ラーニングの効果・必要性の再確認や、導入にあたっての具体的手法、実践上の課題やその対応策などについて、共有することを目的としました。本学の教職員以外に、広島県内外の大学・高等学校等の教育関係者など、学外から約40名の参加者がありました。



県立広島大学学長補佐・A P事業推進部会長の馬本勉先生、および本学A Pワーキンググループ座長の斉藤克幸先生によるAP事業全体のねらい・取組内容の紹介に続き、県立広島大学A P事業推進部会の五條小枝子先生、および本学A P可視化部会の寺岡千恵子先生により、両大学でのアクティブ・ラーニング実践例が紹介されました。県立広島大学からはフィールドワークを核とした全学共通教育科目群「広島と世界」について、本学からは健康栄養学部管理栄養学科の学生による地域・企業と連携したレシピ開発について、それぞれ取組を進める上での成果と課題について報告がありました。



これらの発表・報告内容をふまえ、上記4名の方をパネリストとしたパネルディスカッションを行いました。参加者にご記入いただいた質問紙の内容に基づ

き、本学A Pワーキンググループの鹿江宏明先生がコーディネーターを務め討議を行いました。時間の都合上、「アクティブ・ラーニング実践をどう評価と結びつけるか」という点に絞った進行となりました。それぞれの取組の目的に照らしたルーブリックの開発や、学生のパフォーマンスを細かく採点する手法などがパネリストから紹介されましたが、グループ内の意識・態度の格差をどう解消するかなど、残された課題が多いことも浮き彫りになりました。

今回のセミナーは、高等教育の専門家からレクチャーを受けるというスタイルではなく、現在手探りながらも実践を進めている両大学の現状を本学教職員および学外参加者の方々にご覧いただき、それぞれの立場から自身の授業等に導入できる「アクティブ・ラーニング」について模索することを目指しました。討議に十分な時間を割くことができなかったのは残念ですが、取組を進めていくためのヒントと活力を見出す意義があったのではないかと考えています。

県立広島大学からお出でいただいた馬本勉先生、五條小枝子先生、またご参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。本学では、今後もこうしたAPセミナーを継続的に開催します。多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

もどる



比治山大学・比治山大学短期大学部 〒732-8509 広島市東区牛田新町4丁目1-1

[サイトポリシー](#) | [個人情報保護方針](#) | [サイトマップ](#)

Copyright © HIJİYAMA UNIVERSITY. All rights reserved.